

第1回医事業務研究会

(新任者教育基礎講座No.1)

● 日時 平成29年5月16日(火)

10時～16時15分

● 会場 岡山県医師会館 401会議室他

● 出席者 48病院71名・委員13名

午前は接遇・マナー研修、午後からは希望グループに分かれての専門基礎講座を行った。

接遇・マナー研修

真心を込めた対応をしましょう



講師
岡山済生会総合病院
人事課
森下妙子 接遇担当係長

人の第一印象は、会った時の3秒から5秒で判断されその判断基準は、視覚情報が55%、聴覚情報が38%、言語情報が7%であると言われていた。私たち病院職員の行動や言動は、患者さんからどのように見えているのか常に考えた振る舞いを心がけることが大切である。相手に理解していただくためには、誤解されやすい振る舞いをしないことが重要である。私たちの普段の何気ない振る舞いは患者さんにとどのような印象を与え、どのように映し出されているのか実践を交え学んだ。

また、病院職員としての基本的な笑顔、きれいな姿勢、お辞儀の仕方などの

実践も行った。

病院には、様々な年齢層の方が来院されることから、自分の物差しで語るのではなく、高齢者にいたっては、古くからの慣わしを重んじる方も少なくないため可能な限り相手の気持ちを汲み、さりげなく援助し目配り心配りに努めた対応を行う。

患者さんに即した伝え方、やわらかい表現、聞きやすい速さと年齢にあった音域を使い分ける工夫等も忘れず、常に相手の立場に立ち真心を込めた対応をすることを忘れてはいけないことを学んだ。

(医事業務委員 川上恵子)

希望グループ別基礎講座

急性期(DPC含む)グループ

(20病院38名出席・委員4名)

急性期グループでは、入院基本料と加算についての基本的な算定ルールや診療報酬の1日入院や外泊時の考え方、また入院時食事療養費について説明した。特定入院料は、特定集中治療室管理料を例に特徴や算定条件を説明した。DPCについては、概要から診断群分類の仕組みや決定までの考え方やルールの仕組みや決定までの考え方やルールの算定時の留意点について説明した。

医事業務は診療報酬点数をよく理解し、算定もれない請求に繋げることが大切である。

(医事業務委員 南石良子)

ケアミックスグループ

(22病院26名出席・委員5名)

ケアミックスグループでは、まず基本的な入院料について説明し、算定条件(入院診療計画、医療安全管理体制、院内感染防止対策、療養環境、褥瘡対策、栄養管理)や1日入院の考え方、食事療養費について詳しく説明した。また、DPCについては、樹形図に沿って算定する場合の考え方や仕組みについて説明。療養病棟入院基本料については、変遷と取り巻く環境を踏まえ、入院料や加算について説明。特定入院料については、回復期リハビリテーション、地域包括ケア入院料を例に、特徴と算定条件を中心に説明した。

(医事業務委員 牧 宏紀)

精神科グループ

(6病院7名出席・委員3名)

精神科グループでは、研究会テキストに沿って精神科専門療法の説明を行った。診療報酬の精神療法の考え方など具体例を用いパターン別に説明。保険請求時のポイント・留意点・暦月・暦週についての考え方も説明した。入院料については、精神病棟入院料と特定入院料の違いを説明。外泊・食事療養費・特別食についても説明した。

練習問題を行い、内容の理解を深めた。

(医事業務委員 石田浩子)

医事業務研究会

(新任者教育基礎講座No.2～5)

第2回医事業務研究会

(新任者教育基礎講座No.2)

- 日時 平成29年5月30日(火) 10時～16時10分
- 会場 岡山県医師会館 401会議室他
- 出席者 48病院70名・委員14名

第2回からは、病床規模別の3グループに分かれて講義を行った。

「受付から請求まで」は、守秘義務・個人情報保護法、医療保険制度など医療事務を行う上での基礎知識を解説した。

「診察料」は、初診料・再診料を中心に基本的な算定方法や加算に対する考え方、通則の解釈などの説明を行った。



▲受講風景

「医学管理等」は、数多くある医学管理の項目から、関わりの多い代表的な項目を取り上げて内容を解説した。

また、講義の後に一問ずつ練習問題を解いて内容の理解を深めた。点数算定にあたり、算定要件に注意して加算等の点数を積み重ねていくことが大切である。(医事業務委員 西崎幸子)

第3回医事業務研究会

(新任者教育基礎講座No.3)

- 日時 平成29年6月12日(月) 10時～16時15分
- 会場 岡山県医師会館 401会議室他
- 出席者 47病院69名・委員12名

第3回は在宅医療、投薬、注射についての講義を行った。

「在宅医療」は、第1節の往診料と在宅患者訪問診療料の違い、第2節の指導管理料と材料加算の算定における注意点を解説した。

「投薬」は、外来と入院の算定方法の違い、薬価計算(5捨5超入)、特定疾患処方管理加算を中心に説明した。後発医薬品の使用促進における国の医療政策を解説した。

「注射」は、注射手技の種類についてイラストを使って説明した。練習問題では、実際に点数算定を行いながら理解を深めた。診療報酬明細書への記載方法についても説明した。

(医事業務委員 畑勝久)

第4回医事業務研究会

(新任者教育基礎講座No.4)

- 日時 平成29年6月21日(水) 10時～16時15分
- 会場 岡山県医師会館 401会議室他
- 出席者 46病院67名・委員12名

第4回は処置、手術、麻酔について診療報酬点数の講義を行った。

「処置」は、テキスト及びスライドを使って写真を交えながら説明を行った。通則の捉え方、考え方、実際の処置行為にあたる創傷処置、ドレーン法や透析治療にあたる人工腎臓、救命処置にあたる人工呼吸、非開胸的マッサージ、整形処置にあたるギブス包帯など一般的なよく出る項目について算定ルールや点数の取り方について解説した。

「手術」「麻酔」も、テキストを中心にスライドを使いながら算定ルールや点数の取り方について説明した。創傷処理、輸血、閉鎖循環式全身麻酔など練習問題から点数計算と点数算出、診療報酬明細書の記載ができることを目標に講義を進めた。受講者のアンケート結果から処置・手術とも大半の方から理解できたとの評価をいただいた。



▲講師の医事業務委員の皆さん

(医事業務委員 河原秀明)

第5回医事業務研究会

(新任者教育基礎講座No.5)

- 日時 平成29年6月28日(水) 10時～16時15分
- 会場 岡山県医師会館 401会議室他
- 出席者 46病院67名・委員13名

5月16日から始まった基礎講座も最終回を迎え、検査・病理診断、画像診断、リハビリテーションについて講義を行った。

「検査・病理診断」は、通則部分を中心に基本診療料に含まれる検査や対称器官に係る検査、通減や回数制限のある検査等、算定における留意点を説明し、検体検査と生体検査及び病理診断について解説した。

「画像診断」は、エックス線診断料やコンピュータ断層撮影診断料等の算定における「同一部位」や「同時」等の解釈の説明を行い、算定例を示しながら解説した。「リハビリテーション」は、疾患別リハビリテーション料の算定単位、上限、標準的算定日数等について解説し、リハビリテーション総合計画評価料についても説明した。



最後に、全5回の講義に全て出席した受講者65名に対して修了書を授与し、新人研修は無事終了した。

(医事業務委員 高田知行)